

## 078 二人の盲人と口の利けない人を癒す、ナザレで受け入れられない

マタイによる福音書 9 : 27~34、マルコによる福音書 6 : 1~6

### 二人の盲人をいやす (マタイによる福音書 9 : 27~32)

27 イエスがそこからお出かけになると、二人の盲人が (大声で) 叫んで、「**ダビデの子よ、わたしたちを憐れんでください**」と言いながらついて来た。

→**ダビデの子** イスラエルの多くの預言者がメシアはイスラエル史上、最も偉大な王であるダビデ王の家系から出る (ダビデ→ソロモン→レハブアム・・・アサ→ヨシヤファト・・・ヒゼキア・・・ヨシヤ・・・ヨセフ→イエス) と語ったので、メシアは「ダビデの子」とも呼ばれた。

28 イエスが家 (→私的な空間) に入ると、盲人たちがそばに寄って来たので、「**わたしにできると信じるのか**」と言われた。二人は、「はい、主よ (=ナイ、キュリエ)」と言った。

29 そこで、イエスが二人の目に触り、「**あなたがたの信じているとおりになるように**」と言われると、  
30 二人は**目が見えるようになった** (→神と霊的な事柄を見る内側の視力の回復を象徴している)。  
イエスは、「**このことは、だれにも知らせてはいけない**」と彼らに厳しくお命じになった。

31 しかし、二人は外へ出ると、その地方一帯に (イエスの命令に従わず) イエスのことを言い広めた。

### 口の利けない人をいやす (マタイによる福音書 9 : 32~34)

32 二人が出て行くと、**悪霊に取りつかれて口の利けない人**が、イエスのところに連れられて来た。

33 悪霊が追い出されると、**口の利けない人がものを言い始めた** (→口の利けない人がものを言うことは、霊の中で主に満たされることによって、わたしたちの語る能力、賛美する能力が回復されることを象徴している) ので、群衆は驚嘆し、「**こんなことは、今までイスラエルで起こったためしがない**」と言った。

34 しかし、ファリサイ派の人々は、「**あの男は悪霊の頭**の力で悪霊を追い出している」と言った。

→**悪霊の頭** ベルゼブルとしても知られ、その名称はカナン人の神バアルの名に由来する。悪霊の頭はサタン (神の敵対者) や悪魔としても知られていた。

### 【参考】ベルゼブル

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 7 / 聖句等の総数 33250 <ベルゼブル>7個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : ベルゼブル]
S マタイによる福音書	10:25 弟子は師のように、僕は主人のようになれば、それで十分である。家の主人がベルゼブルと言われるのなら、その家族の者はもっとひどく言われることだろう。」	
S マタイによる福音書	12:24 しかし、ファリサイ派の人々はこれを聞き、「悪霊の頭ベルゼブルの力によらなければ、この者は悪霊を追い出せはしない」と言った。	
S マタイによる福音書	12:27 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。	
S マルコによる福音書	3:22 エルサレムから下って来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭の力で悪霊を追い出している」と言っていた。	
S ルカによる福音書	11:15 しかし、中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者や、	
S ルカによる福音書	11:18 あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだらうか。	
S ルカによる福音書	11:19 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。	

ナザレで受け入れられない (マルコによる福音書 6 : 1~6)

01 イエスはそこ (=カファルナウム) を去って (イエスの) 故郷 (ナザレ) にお帰りになったが、(十二人の) 弟子たちも従った。

02 安息日になったので、イエスは (安息日に聖書の朗読と礼拝が行われる、ユダヤ人たちの集会の場所である) 会堂で (ラビとして、律法と預言者を) 教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った。

→安息日 太陽暦の金曜日の日没から土曜日の日没まで

「この人は、このようなことをどこから得たのだろう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような (力ある) 奇跡はいったい何か。

03 この人は、大工ではないか。マリアの息子 (→大工という表現にも言えるが、普通は、父親の名を使い、「ヨセフの子」と言うが、ここではイエスを見下げ軽蔑し、素性の悪さ、不自然な誕生を暗示、表現している) で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。 (→この聖句から、カトリックの教理、「マリアの処女性」の誤りが分かる。)

このように、人々はイエスにつまずいた (→ナザレの人々に再度、福音のチャンスが与えられたが、残念なことに、ナザレの人々はイエスを拒否してしまった)。

→ギリシア語での「大工」は、石やレンガを用いて建設、あるいは家具や道具を製造する人たちも指す。

→ナザレでの最初の拒否 マタイ 13 : 53~58、マルコ 6 : 1~6、ルカ 4 : 16~30

04 イエスは、「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われた。

05 そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。

06 そして、人々の不信仰に驚かれた。それから、イエスは付近の村を巡り歩いてお教えになった。

→イエスは、弟子たちに、いい意味の“現実はなかなかうまく行かない”「失敗学」を教えた。



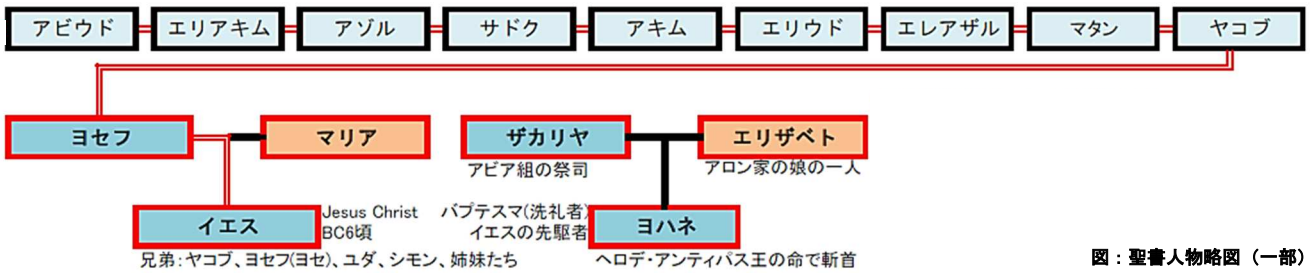
### 【参考】 平安

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 <平安>7個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 平安]
K 民数記	6:26 主が御顔をあなたに向けて／あなたに平安を賜るように。	
K 詩編	122:6 エルサレムの平和を求めよう。「あなたを愛する人々に平安があるように。」	
K 詩編	122:7 あなたの城壁のうちに平和があるように。あなたの城郭のうちに平安があるように。」	
K 箴言	17:1 乾いたパンの一片しかなくとも平安があれば／いけにえの肉で家を満たして争うよりよい。	
K エレミヤ書	29:7 わたしが、あなたたちを捕囚として送った町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があつてこそ、あなたたちにも平安があるのだから。	

【参考】 聖書にあるイエスの親族等

▶マタイによる福音書

01:16 ヤコブは①マリアの夫ヨセフをもうけた。この①マリアからメシア（→選ばれた者、油注がれた者、油を注ぐとは頭に油を塗ることの意味で、その者が特別に重要な職務に選ばれたことを示す[サムエル記上 12 : 13~15]。また、油を注ぐとは、神の力がその人に臨むしと見なされた=マシアハ：ヘブライ語、メシアス：ギリシア語、キリスト=クリトリス：ギリシア語、）と呼ばれるイエスがお生まれになった。



01:18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母①マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊（→世で働く神の力で、新約聖書において、慰め主、あるいは助け主、弁護者として描かれる。）によって身ごもっていることが明らかになった。

01:19 夫ヨセフは正しい人（→もしくは「親切な人」、「常に正しいことを行う人」）であったので、①マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

01:20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻①マリアを迎え入れなさい（聖書協会共同訳：恐れず①マリアを妻に迎えなさい）。①マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。

→イスラエルの預言者たちはメシアがダビデの家系から誕生すると預言した（イザヤ書 11 : 1~5、マタイによる福音書 1 : 17）。

13:55 この人は大工の息子ではないか。母親は①マリアといい、兄弟は★ヤコブ、ヨセフ（=ヨセ）、シモン、ユダではないか。

13:56 姉妹たちは皆、我々と一緒に住んでいるではないか。この人はこんなことをすべて、いったいどこから得たのだろう。」

イエスの兄弟姉妹：ヤコブ、ヨセフ（=ヨセ）、シモン、ユダ、姉妹たち  
 ヤコブ=小ヤコブ=義人ヤコブ：十二使徒の一人で、アルファイ[ギリシア語]（クロパ[アラム語、マルコによる福音書 3 : 18]=クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24 : 18]）の子。  
 ヤコブはイエスの死から復活までを目撃し（コリント信徒への手紙一 15 : 7）、エルサレムのユダヤ人キリスト教会の指導者となった（使徒言行録 15 : 13、21 : 18、ガラテヤの信徒への手紙 1 : 19）。教会の伝承によると、AD70 年以前に処刑された。当時、息子の名前は父親の名前ヨセフを付けて呼ばれるのが習慣だが、ここではヨセフの名前が無い。恐らく既にヨセフが死んでいたか、または父親がいなかったと思われる。

27:56 その中には、②マグダラのマリア（→ガリラヤ湖の西端の町マグダラの出身で、イエスはマグダラのマリアを癒した[マルコによる福音書 16 : 9 等]。イエスに従う者として、またイエスの親しい友人として共に旅をした。）、①★ヤコブとヨセフの母マリア、③ゼベダイの子（→★大ヤコブ、★大ヤコブの弟のヨハネ）らの母（→サロメ）がいた。

▶マルコによる福音書

06:03 この人は、大工（→ギリシア語は、石やレンガを用いて建設、あるいは家具や道具を製造する人を指す。）ではないか。①マリアの息子で、★ヤコブ、ヨセ（＝ヨセフ）、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」このように、人々はイエスにつまずいた。

15:40 また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、②マグダラのマリア、①★小ヤコブとヨセ（＝ヨセフ）の母マリア、そして③サロメ（→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア）がいた。

15:47 ②マグダラのマリアと①ヨセ（＝ヨセフ）の母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

16:01 安息日（→金曜日の日没から土曜日の日没まで）が終わると、②マグダラのマリア、①★ヤコブの母マリア、③サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。

▶ルカによる福音書

01:27 ダビデ家のヨセフという人のいいなづけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名は①マリアといった。

02:16 そして急いで行って、①マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

▶ヨハネによる福音書 →マタイ 27:56 とマルコ 15:40 は同じ内容の記述がされている。

19:25 イエスの十字架のそばには、①その母と④母の姉妹、⑤クロパ[アラム語]（→アルファイ[ギリシア語]の別名＝クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24 : 18]）の妻マリアと②マグダラのマリアとが立っていた。（新共同訳、聖書協会共同訳）

→Near the cross of Jesus stood his mother, his mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW INTERNATIONAL VERSION)

→Now there stood by the cross of Jesus His mother, and His mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW KING JAMES VERSION)

→さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。（口語訳）

→イエスの十字架のそばには、彼の母、彼の母の姉妹でクロパの妻マリヤ（＝母の姉妹とクロパの妻マリヤとが同じ人）、マグダラのマリヤが立っていた。（回復訳）

→兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。（新改訳）

▶使徒言行録

01:14 彼らは皆、婦人たちやイエスの母①マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。

▶ユダの手紙

01:01 イエス・キリストの僕で、★ヤコブの兄弟であるユダ（→マルコによる福音書 6 : 3）から、父である神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人たちへ。

★：十二使徒 →【参考】



**【参考】 イエスの十字架の時、そばにいた人たち(人名等は聖書の記述順)**

マタイによる福音書	27 : 56	<b>①</b> マリア (→子 : イエス、小ヤコブ、ヨセ (ヨセフ)、ユダ、シモン) <b>②</b> マグダラのマリア <b>③</b> ゼベダイの子 (大ヤコブ、弟のヨハネ) らの母サロメ
マルコによる福音書	15 : 40	<b>②</b> マグダラのマリア <b>①</b> 小ヤコブとヨセ (=ヨセフ) の母マリア <b>③</b> サロメ (→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア)
ヨハネによる福音書	19 : 25	<b>①</b> マリア (←その母) <b>④</b> 母の姉妹 <b>⑤</b> クロパの妻マリア <b>②</b> マグダラのマリア

回復訳 : イエスの母の姉妹でクロパの妻マリヤ  
 →母の姉妹=クロパの妻マリアとが同じ人

**【参考】 大ヤコブ(ゼベダイの子)、ヨハネ、ヤコブ(小ヤコブ)**

**▶大ヤコブ(ゼベダイの子) Jacobus**

→James「かかとを掴む者」(ヘブライ語) ゼベダイの子、漁師/ガリラヤ出身/ヨハネの兄(最初の殉教者)  
 ヨハネの兄で「ゼベダイの子ヤコブ」である。「アルファイの子ヤコブ」と区別するため「大ヤコブ」(年長のヤコブ)とも呼ばれる。父はゼベダイ、漁師であった。弟のヨハネと共にガリラヤ湖畔で網の手入れをしていたところをイエスに呼ばれ、そのまま父と雇い人を残して弟のヨハネと共に弟子になった。二人はともに血気盛んで向こう見ずなところがあり「ボアネルゲス」(雷の子ら)と呼ばれていた。イエスが捕らわれる直前、オリーブ山のゲツセマネに向かった時に、ヨハネ、ペトロと同行した。しかし、イエスの苦悩の祈りをよそに眠り込んでしまった。

キリストの死後、6年間スペインに行き布教活動を行った。エルサレムに戻るとキリスト教徒への迫害はすざましく、「使徒言行録」12:2によるとユダヤ人の歡心を買おうとしたヘロデ・アグリッパ1世によって捕らえられ、殉教(斬首)した。使徒の中で最初の殉教者である。

彼の弟子達はパレスチナを離れ、遺骸をスペインのコンポステラ (campus stellae : 星の野原) に運んだとされている。

**▶ヨハネ Johannes**

→John「神は慈しみ深い」(ヘブライ語) ゼベダイの子、漁師/ガリラヤ出身/大ヤコブの弟

ゼベダイの子で大ヤコブの弟、ガリラヤの漁師の子。イエスを洗礼した洗礼者ヨハネの弟子。洗礼者ヨハネと区別するために特に「使徒ヨハネ」と呼んだり、「ゼベダイの子ヨハネ」「福音記者ヨハネ」と呼ぶこともある。ヤコブ、ペトロと共にイエスの一番弟子であり、常にイエスと行動を共にした。

兄弟ともに性格が激しく、勝ち気で、自分こそイエスの一番の弟子だと考え、仲間たちから「ボアネルゲス」(雷の子ら)とあだ名をつけられた。イエスが十字架にかけられたときも弟子としてただ一人、十字架の下にいた。また、イエスの墓が空であることを聞いてペトロとかけつけ、真っ先に墓にたどりついた。

イエスの母マリアを連れエフェソスに移り住んだヨハネは、その後、パトモス島(エーゲ海に浮かぶギリシアの小島)に幽閉され、そこで「ヨハネの黙示録」を記した。十二使徒の中でただ一人殉教せず、95歳まで生きたとされる。

**▶ヤコブ(小ヤコブ) Jacobus**

→James「かかとをつかむもの」ヘブライ語 義人ヤコブ、アルファイの子

ヤコブはイエスの親族(弟→マタイによる福音書 13 : 55、マルコによる福音書 6 : 3、または従兄→カトリック等)で、「アルファイの子ヤコブ」あるいは「小ヤコブ」といわれる。イエスと顔がよく似ていたと言われているが、十二使徒の中では目立たない存在で、名前しか知られていない。教会を代表する人物として活躍し、初代エルサレム司教になった。「ヤコブの手紙」の著者といわれている。

エルサレムの神殿の屋根から突き落とされ、頭をこん棒でたたき割られて殉教したといわれている。